

福井の幕末明治 歴史秘話

<第24号>

平成29年1月31日発行

新発見「坂本龍馬の手紙」に登場する福井藩3人の関係

今月13日、坂本龍馬の手紙が新たに発見されたニュースが、大々的に報道されました。報道では、龍馬の「新国家」建設にける情熱と周到な根回しに焦点が当てられましたが、改めて、福井藩の幕末明治に果たした役割も注目されました。今回は、新発見の手紙に登場する中根雪江（せっこう）、松平春嶽、由利公正の3人の関係を取り上げます。



中根雪江

今回発見された手紙は、龍馬から、福井藩の重臣で、春嶽を側用人として補佐した中根雪江に宛てられたものです。慶応三（1867）年11月10日に書かれたとされる手紙には、こう記されています。“先頃直接申し上げておきました三岡八郎（後の由利公正）兄の上京、出仕の一件は急を要することと思っておりますので、なにとぞ早々に（福井藩の）ご裁可が下りますようお願い奉ります。三岡兄の上京が一日先になったならば新国家の家計（財政）の成立が一日先になってしまうと考えられます。ただ、ここの所にひたすらご尽力をお願いいたします。”

当時、由利公正は、挙藩上洛計画の中止により、文久三（1863）年から蟄居の身にありました。『由利公正伝』では、当時の状況について、“龍馬との福井での会談以降、再三、新政府側から招聘の手紙が届いたにも関わらず、知らされることがなく、12月半ばになってようやく派遣の決定が下された。この復権遅延は、守旧派の嫉視。”と記しています。

この背景には、挙藩上洛計画を巡る守旧派・改革派の対立がありました。挙藩上洛計画は、由利公正や横井小楠が中心になって計画したもので、福井藩を挙げて武装し、京へ上り、一挙に攘夷派を一掃、国論を開国に向けて統一しようとするものでしたが、これに反対したのが、今回の手紙の宛先である中根雪江でした。中根ら守旧派は、幕府を無視する行動や藩を危うくする行動は慎むべきだと主張しました。実は、松平春嶽も改革派の動きを警戒していたとされ、“君臣の名分を重んじることなく、幕府をないがしろにし、藩主を軽んじ、…”（松平春嶽未公開書簡集）として、改革派を批判する内容を書簡に記しています。

この対立の本質は、藩と国家のいずれに重きを置くかの問題だったと言われています。国家を思い行動を起こしたものの挫折した由利。その思いは、今回発見された手紙に坂本龍馬が記した「新国家」の下で、発揮されていくことになるのです。

<参考資料> 由利公正伝、由利公正のすべて（新人物往来社）

～幕末ふくい歴史紀行～ [恒道神社]

- ・松平春嶽を祭神とする福井神社。その境内左手にあるのが恒道（こうどう）神社です。松平春嶽の側近として藩政改革や幕政改革に関わった中根雪江が、橋本左内、鈴木主税とともに祀られています。時代を経てもなお、春嶽を支えているようです。
- 【住所】福井市大手3丁目16-1（福井神社境内）（JR福井駅西口から徒歩9分）



恒道神社

★お知らせ えどはくカルチャー「由利公正という個性」を開催！

- ・平成29年2月23日（木）、江戸東京博物館（東京都墨田区）で開催（14:00～15:30）
- ・福井市立郷土歴史博物館長の角鹿尚計氏が、福井藩が生んだ不世出の経世家・政治家 由利公正について講演。坂本龍馬が新政府の財政を任すことを期待した由利公正の生涯と個性溢れる功績を紹介します。
- 【住所】東京都墨田区横網1-4-1 JR総武線「両国駅」西口より徒歩3分 【申込・問い合わせ先】03-3626-9974